

平成 27 年度 基盤研究（S） 審査結果の所見

研究課題名	人の認知・判断の特性と限界を考慮した自動走行システムと法制度の設計
研究代表者	稲垣 敏之（筑波大学・システム情報系・教授）
研究期間	平成 27 年度～平成 31 年度
審査結果の所見	世界的に開発が行われている自動走行システムは今日的で社会的にも重要な研究課題であるが、これに対して本研究では、横断的なチームを組んで人の認知特性、工学設計、法制度面をカバーする包括的な課題解決を目指す取組がなされている。審査においては自動化についてのより明確な設計哲学の必要性、権限委譲に関わる技術課題の難しさ、研究チーム間の協力についての懸念などが指摘された。しかしながら、研究チームは同分野で十分な実績があり、基盤研究（S）として十分な成果が期待できるため、採択すべき課題であると判断した。